

## 分担課題: 不育症女性の妊娠による束縛感と不安

研究分担者 中塚幹也 岡山大学大学院保健学研究科 教授  
岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育ところの相談室」責任者

### 研究要旨

不育症女性の妊娠中の束縛感と不安などを明らかにすることにより、精神的支援のあり方を検討することを目的に研究を行った。198名の妊婦(正常群132名, 不育症群66名)を対象とし、妊娠初期(10週前後)と妊娠中期(18-24週)に自己記入式質問紙調査を行なった。「妊娠への不安」は初期に不育症群の方が正常群に比較して有意に高値であった。「束縛感がある」は中期に不育症群の方が有意に高値であり、正常群は初期から中期に有意に低下したが、不育症群は有意な低下はなかった。「行動制限」は、初期、中期ともに不育症群では有意に高率であった。STAIの状態不安と特性不安は、両群間に有意差は認められなかった。花沢氏一般不安合計得点では初期に、16項目のうち4項目では初期、中期ともに不育症群は有意に高値であった。母性不安合計得点は、不育症群は初期に正常群に比較して有意に高値であり、妊娠経過領域は初期、中期ともに有意に高値であり、分娩の予想領域では初期に有意に高値であった。容姿の変化領域でのみ、有意に低値であった。生児の有無別では、母性不安の夫との関係領域で初期、中期ともに生児有り群の方が、無し群に比較して有意に高値であり、同様に、「私と夫の関係に満足」で生児有り群の方が無し群に比較しての有意に低値であった。流産回数別にみると、3回以上群が2回以下群に比較して「妊娠へのうれしさ」、PAIが有意に低値あり「夫、実父母、姑舅との関係に満足」では有意に低値であった。

不育症女性の妊娠中の不安や束縛感は強く持続しており、それは、自身の身体症状として表れたり家族関係にも影響を及ぼしたりしていた。このような心理や背景を理解した上での支援が求められる。

### A. 研究目的

不育症女性は繰り返す流産による悲しみから、妊娠中も精神的ストレスを多く抱えながら過ごすことになる。今回、不育症患者の不安、束縛感、自尊感情、胎児への愛着形成などを明らかにし、今後の支援の示唆を得ることを目的として研究した。

### B. 研究方法

2009年8月～2010年6月にA市の2病院で健診を受け、同意が得られ、母児ともに合併症の認められない妊婦198名(正常群132名, 不育症群66名)に対して、妊娠初期、中期に、属性、妊婦の気持ちや行動制限などの自己記入式質

問紙調査を行い、回収箱にて回収した。また、STAI、花沢氏妊娠期用不安尺度、Rosenbergの自尊感情尺度、PAI(胎児愛着尺度)なども使用した。

(倫理面への配慮)

岡山大学大学院保健学研究科看護学分野倫理委員会承認後、対象者に対し研究の趣旨、プライバシーの保護、調査の協力を辞退しても不利益が生じないことを口頭と書面で説明し同意を得た。尚、収集したデータは鍵付きの保管庫にて管理を行った。

### C. 研究結果

年齢は正常群  $30.3 \pm 5.2$  (mean  $\pm$  SD) 歳, 不育症群  $33.5 \pm 3.9$  歳, 既往流産回数は, 各  $0.6 \pm 0.9$  回,  $2.7 \pm 1.6$  回であった. 不育症群では, 不妊治療歴が 45.5% で, 低用量アスピリンの内服は 96.8% が行い, 52.0% がヘパリン注射治療中であった.

「妊娠に対する心の準備」, 「妊娠のうれしさ」は, 正常群と不育症群では, 有意差は認められなかった. 「妊娠に対する不安」では, 不育症群が正常群に比較して有意に高値であった. 妊娠に対する「束縛感がある」では, 中期に不育症群が正常群に比較して有意に高値であった. 正常群では初期から中期にかけて有意に低下するが, 不育症群では有意な低下は認められない. 妊娠による「行動を制限している」は初期, 中期ともに不育症群が正常群に比較して有意に高率であった. STAI の状態不安, 特性不安ともに両群間別, 時期別でも有意差は認められなかった. 状態不安の「高不安」は初期の不育症群に見られた. 花沢氏一般不安の合計得点では, 初期に不育症群が正常群に比較して有意に高値であり, 16 項目のうち 4 項目では, 初期, 中期ともに不育症群が正常群に比較して有意に高値であった. 花沢氏母性不安の合計得点では, 初期は不育症群の方が正常群より有意に高値であり, 妊娠の経過領域で不育症群の方が初期, 中期ともに有意に高値であり, 分娩の予想領域では不育症群の方が初期に有意に高値であった. 一方, 容姿の変化領域では, 初期に不育症群の方が有意に低値であった. PAI といとおしきは, 正常群と不育症群の間で有意差は認められなかった. PAI は, 両群ともに中期にかけて有意に増加した. 自尊感情は, 合計得点では有意差は認められなかったが, 2 項目で不育症群の方が有意に高値であった.

生児の有無との関連では, 「妊娠に対する心の準備」では, 生児の無い場合は, 不育症群が正常群に比較して有意に高値であった. 「妊娠に対する不安」は, 生児の有無に関わらず, 不育症群が正常群に比較して有意に高値であった. 「束縛感がある」, 「行動を制限している」, STAI の状態不安, 特性不安, 一般不安はいずれも時期別, 不育症の有無別, 生児の有無別で有意差は認められなかった. 状態不安の「高不安」は初期の不育症群の生児無し群に見られた. 母性不安では, 分娩の予想領域で, 生児無し群が初期に有意に高値であった. 夫との関係領域では不育症群の生児

有り群が初期, 中期ともに有意に高値となっていたのに対応して, 「夫の関係に満足」では不育症群の生児有り群が有意に低値であり, 同様の結果だった. PAI は中期に, 不育症群の生児なし群が有意に高値となっていた.

流産回数との関連では, 不育症群の流産回数 3 回以上群が, 2 回以下群に比較して初期に有意に「妊娠のうれしさ」, PAI がともに低値であり, 状態不安の「高不安」のレベルであった. また, 「夫, 両親, 姑舅との関係の満足」が有意に低値であった.

### D. 考察

不育症女性は, 妊娠への不安を持ち, それでも生児を望む気持ちと葛藤しながら, 「妊娠への心の準備」をしている. また, 不育症女性は, 流産の喪失体験を繰り返すことから, 流産回数が増加することにより, 妊娠自体を新たな不安, 恐怖と感じ, 「妊娠に対するうれしさ」が抑制されている. 「妊娠に対する不安」では, 生児の有無, 流産回数に関わらず, 不育症群では, 有意に高値であった. 支援者は, 「子どもがいるから」, 「まだ 2 回の流産だから」等の先入観を持って接することは適切ではない. 妊娠による束縛感を感じ, 行動を制限しながら, 妊娠中を過ごしている不育症妊婦へは, 精神的な束縛感の原因となっている疑問, 不安に丁寧に答え, それらを緩和する支援が必要である. 初期の不育症群, 不育症群の生児の無い群, 流産回数 3 回以上群等の STAI の状態不安の高不安群に属するハイリスク妊婦への配慮も重要である. 特性不安では有意差が認められなかったため, 不育症女性の不安は, 繰り返す流産により引き起こされていると考えられる. 一般不安では, 不育症妊婦は妊娠中, 常に不安を抱えており, 発汗等の身体症状も出現していることが認められた. 母性不安では, 不育症妊婦は妊娠継続と, 胎児の発育への不安が主であり, 自分の容姿の変化よりも赤ちゃんへの意識が高くなっていた. 今後は, 妊娠に続く出産, 育児への意識を少しずつもてるような支援が必要である. 不育症女性の生児あり群では, 初期, 中期ともに, 夫との関係領域の不安が高値であり, そのことと関連して, 夫との関係満足度が低値であった. これについては今後の研究課題である. 流産回数 3 回以上群では, うれしさ, PAI が低値で, STAI 状態不安が「高不安」となっており, 「夫, 両親, 姑舅との関係の満足」の満足度も低値

であった。不育症妊婦のなかでも、特に、流産回数が多くなっている場合は周囲への理解を得たり、良好なコミュニケーションのために、夫婦や家族でのカウンセリングも有用と思われる。自尊心合計得点では、すべてにおいて、検討したが、有意差は認められなかった。不育症患者は、流産を繰り返し、生児を出産することがイメージできず、自分のアイデンティティが揺らぐことを経験したり、自分の体を責める気持ちを持つたりすることで、自尊心が損なわれるのではないかと危惧していたが、今回の調査においては、不育症妊婦において必ずしも自尊心の低下は見られなかった。

#### E. 結論

不育症女性の抱える不安は、妊娠中、高いレベルで持続しており、胎児への愛着形成を抑制したり、自身の身体症状として表れたり、家族関係にも影響を及ぼしていた。その不安は、個人特性から引き起こされたのではなく、流産、死産を繰り返すことによるストレスが要因であると考えられる。このような心理や背景を理解した上での、個別性を踏まえた、本人をはじめとする家族をも含めた支援が必要である。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 秦久美子. 不育症女性の妊娠による束縛感と不安. 岡山大学大学院保健学研究科博士前期課程論文(指導 中塚幹也)
- 2) 中塚幹也. 妊産褥婦の診察と検査／妊娠の診断と妊婦管理. 講義録産科婦人科学, 石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編, メジカルビュー社, 東京, 2010年2月.
- 3) 中塚幹也. ジェンダーとセクシュアリティ. 講義録産科婦人科学, 石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫編, メジカルビュー社, 東京, 2010年2月.
- 4) Mikiya Nakatsuka. Endocrine treatment of transsexuals: assessment of cardiovascular risk factors. Expert Rev. Endocrinol. Metab. 5(3) 319-322, 2010
- 5) 中村恵子, 小野晴美, 芳賀真子, 中塚幹也. 岡大式の教育資材を用いた不育症患者に対する

へパリン自己注射指導の有用性の検討. 看護研究集録平成21年度69-74, 2010

- 6) 吉田真奈美, 溝口祥代, 山下真由, 中塚幹也. 妊婦における食の安全性, 葉酸, 水銀の摂取に関する認識. 母性衛生 50(4):568-574, 2010
  - 7) 小寺菜見子, 大田有貴子, 塩田萌, 中塚幹也. 不妊症に対する高校生と大学生の意識調査. 岡山県母性衛生. 第26号:43-44, 2010.
  - 8) 江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症症例における初診時の顕在性不安の検討. 岡山県母性衛生. 第26号:45-46, 2010.
  - 9) 中塚幹也. LPS, AGEs 刺激による一酸化窒素(NO)産生酵素誘導とプロテアーゼインヒビター. Surgery Frontier 17(3):111-116, 2010.
  - 10) 江見弥生, 藤原順子, 中塚幹也. 不育症女性の抑うつ傾向と顕在性不安の検討:K6, MASを使用して. 日本不妊カウンセリング学会誌 9(1):43-44, 2010.
  - 11) 石丸文穂, 藤原順子, 江見弥生, 中塚幹也. 不妊専門相談センターによる遠隔地の出張相談. 日本不妊カウンセリング学会誌 9(1):77-78, 2010.
  - 12) 杉 俊隆, 中塚幹也(ライター 狩生聖子)知って得する!新「名医の最新治療」Vol.156 不育症. 週刊朝日 115(51)通巻 5037号 104-106, 2010年11月12日. 新「名医」の最新治療2011:その病気はこうやって治せ!朝日新聞出版, 東京.
  - 13) 不育症患者 1割 気分障害疑い. 山陽新聞. 2010年11月29日朝刊
- ##### 2. 学会発表
- 1) 清水恵子, 鎌田泰彦, 田淵和宏, 菊池由加子, 松田美和, シェキルシェビブ, 中塚幹也, 平松祐司. 子宮内膜症の診断における腹腔内貯留駅の有用性の検討. 第31回の日本エンドメトリオーシス学会. 2010年1月16-17日, 京都市.
  - 2) 鎌田泰彦, 清水恵子, 田淵和宏, 菊池由加子, 松田美和, シェキルシェビブ, 中塚幹也, 平松祐司. 子宮内膜症病変における活性化血小板の存在様式に関する検討. 第31回の日本エンドメトリオーシス学会. 2010年1月16-17日, 京都市.

- 3) 中塚幹也「将来の妊娠のために:生殖機能温存の実際」岡山県不妊専門相談センター. 第5回不妊・不育とこころの研修会 2010年3月26日. 岡山市.
- 4) 内藤一郎, 大貫秀策, 中橋いずみ, 斎藤健司, 稲垣純子, 百田龍輔, 中塚幹也, 二宮義文, 大塚愛二. マウス子宮基底膜を構成するIV型コラーゲン $\alpha$ 鎖の免疫組織学的解析. 第115回日本解剖学会総会・全国学術集会. 2010年3月28-30日. 岩手県.
- 5) 後藤 由佳, 奥田 博之, 中塚 幹也. 更年期女性における心拍変動ーエルゴメーター負荷を用いた短時間測定法による月経及びホルモン補充療法(HRT)との関連ー. 第63回日本自律神経学会. 2010年10月22~23日. 横浜.
- 6) 枝園忠彦, 中塚幹也, 西山慶子, 増田紘子, 野上智弘, 池田宏国, 平 成人, 土井原博義. 「生殖器癌における妊孕性治療」薬物療法を受ける乳癌患者に対する生殖機能相談支援システムの構築. 第48回癌治療学会 パネルディスカッション.
- 7) 秦久美子, 久世恵美子, 中塚幹也. 不育症女性の妊娠による不安と束縛感. 第51回日本母性衛生学会. 2010年11月5-6日. 金沢.
- 8) 江見弥生, 中塚幹也. 不育症女性の背景と顕在性不安と抑うつ傾向の関連. 第51回日本母性衛生学会. 2010年11月5-6日. 金沢.
- 9) 小寺菜見子, 塩田萌, 中塚幹也. 不妊症に対する高校生と大学生の意識. 第51回日本母性衛生学会. 2010年11月5-6日. 金沢.
- 10) 中村恵子, 中塚幹也. 不育症妊婦に対するへパリン自己注射指導における岡大式教育資料の有用性. 第51回日本母性衛生学会. 2010年11月5-6日. 金沢.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他  
特になし

不育症患者

# 1割気分障害疑い

岡山大学院  
グループ調査 「精神的ケア必要」



江見弥生助教

流産や死産を繰り返す「不育症」の患者のうち1割余りがうつ状態など気分・不安障害の疑いがあることが岡山大学院保健学研究科の江見弥生助教らのグループの調査で分

かった。第1子出産後に不育症になった人がより不安傾向が強いことも判明、精神的ケアの必要性をあらためて浮き彫りにした。

厚生労働省の不育症に関する研究の分担研究の一つ。2008年5月～10年1月に岡山大病院産科婦人科の不妊外来を初めて受診した女性91人(21～43歳、流産2～7回)に調査した。気分・不安障害患者のスクリーニング(ふるい分け)に使う「K6」と、不安の強さを測定する「潜在性不安尺度(MAS)」という質問回答を点数化する二つの調査法を使用した。MASでは、軽いう

つ状態やパニック障害など含む不安障害領域と判断する22点以上が10人(11・0%)、うつ病領域とされる27点以上は3人(3・3%)いた。

一方、K6では、50%以上が気分・不安障害に該当するとされる9点以上が22人(24・2%)。両調査で点数の高い人は共通し、相関関係が認められた。流産回数が増えるほど不安が強まる傾向もみられる。特に第1子を産んだ後に4回以上流産した人(4人

が両調査とも最も点数が高く、同じ4回以上の流産を経験し子どもがいない人を上回った。結果について江見助教は「以前は無事産めただけにギャップが大きく、自分の体の変化などに大きな不安を抱いているのではないかと。子どもがいることが必ずしも不安の緩和にはつながらっていない」と指摘する。同病院では「岡山県不妊専門相談センター」が不育症の相談に

乗るほか、流産した女性に対して、子どもとお別れする時間や場を設けるなど悲しみを緩和するグループケアを実施しているが、医療機関での取り組みはまだ少ないという。

江見助教は「多くの人は話を聞いてあげるなどのケアをすれば心の回復はみられる。医療者が関心を持ち、患者が安心して悲しみを打ち明けられる環境をつくるのが大切」と話している。

(阿部光希)

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
中塚幹也	妊産褥婦の診察と検査／妊娠の診断と妊婦管理	石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫	講義録 産科婦人科学	メジカルビュー社	東京	2010	
中塚幹也	ジェンダーとセクシュアリティ	石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫	講義録 産科婦人科学	メジカルビュー社	東京	2010	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Mikiya Nakatsuka	Endocrine treatment of transsexuals: assessment of cardiovascular risk factors.	Expert Rev. Endocrinol. Metab.	5(3)	319-322	2010
中村恵子 小野晴美 芳賀真子 中塚幹也	岡大式の教育資材を用いた不育症患者に対するヘパリン自己注射指導の有用性の検討	看護研究集録 平成 21 年度		69-74	2010
吉田真奈美, 溝口祥代, 山下真由, 中塚幹也	妊婦における食の安全性, 葉酸, 水銀の摂取に関する認識	母性衛生	50(4)	568-574	2010
小寺菜見子, 大田有貴子, 塩田萌, 中塚幹也	不妊症に対する高校生と大学生の意識調査	岡山県母性衛生	26	43-44	2010
江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也	不育症症例における初診時の顕在性不安の検討	岡山県母性衛生	26	45-46	2010
中塚幹也	LPS, AGEs 刺激による一酸化窒素(NO)産生酵素誘導とプロテアーゼインヒビター	Surgery Frontier	17(3)	111-116	2010
江見弥生, 藤原順子, 中塚幹也	不育症女性の抑うつ傾向と顕在性不安の検討:K6, MASを使用して	日本不妊カウンセリング学会誌	9(1)	43-44	2010
石丸文穂, 藤原順子, 江見弥生, 中塚幹也	不妊専門相談センターによる遠隔地の出張相談	日本不妊カウンセリング学会誌	9(1)	77-78	2010
杉 俊隆, 中塚幹也 (ライター 狩生聖子)	知って得する! 新「名医の最新治療」Vol.156 不育症	週刊朝日	115(51) 通巻 5037号	104-106	2010